

PSCSU News

発行所：パナソニック セミコンダクターソリューションズ労働組合
住 所：京都府長岡京市神足焼町1番地
発行人：南 俊幸 編集人：吉井 英喜

2019-No.16
2019年 3月12日

2020年総合労働条件改善闘争

速報⑥

CONTENTS

- ・PSCS労組－PSCS社 No.5縮小交渉（回答意向）
- ・PGU－パナソニック本社 No.4交渉

減益見通しの中、奮起に期待を込めた回答意向を引き出す

1 PSCS労組－PSCS社 No.5縮小交渉 3月11日(水) 10時～

PSCS 回答意向

- 賃 金：1,000円相当の「人への投資」施策を実施
賃金水準引き上げ：500円
(個々人への配分は、仕事等級ごとの傾斜配分とした上で、本給改定額表を書き換え)
退職金・年金制度の拡充：500円相当
(個々人への配分は年間付与ポイントを一律配分)
- 一時金：＜全社業績反映部分＞
一人平均支給額 年間 1,843,300円（4.85カ月相当）
- 最低賃金：産業別最低賃金（18歳見合い）、
25歳・40歳を現行から 1,000円の引き上げ
- 初任給：大学・高校卒を現行から 3,000円の引き上げ
(大学院・高専・短大卒をそれぞれ現行から 3,000円の引き上げ)

■PSCS社回答意向引き出しに向けた論議

組合 昨日出された、パナソニック本社の回答意向を踏まえ、会社の最終回答意向を伺いたい。

会社 パナソニック－本社間の回答意向を踏まえ、PSCSとして慎重に検討を重ねた結果、賃金・一時金ともに同等内容の回答意向としたい。

米中貿易摩擦や半導体市況の悪化など、非常に厳しい経営環境が続く中での重い決断であった。しかし、我々の事業が再び競争力を高め収益力を上げる為には、全従業員が一丸となり、新たなステージに向かって挑戦していかなければならない。今回の回答意向は、更なる意志結集と奮起に期待を込めたものであ

り、労働組合として今回の回答の重みを十分に理解いただき、正しく組合員に伝えていただきたい。

組合 会社回答意向を確認することができた。交渉期間中に新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化し、先行きの不透明感が日に日に高まる中での交渉であったが、今回の回答意向は、厳しい経営環境にも負けず、組合員がモチベーションを高く維持し新たなステージに挑戦するための挑戦意欲の喚起というメッセージが込められたものであると受け止めている。また、組合が求めて来た、3つの不安払拭に向けた「人への投資」についても、組合要求の趣旨を踏まえた決断をいただいた。組合としても、今回の回答意向の意味と重み、そして会社側の思いについては、しっかりと組合員に伝えていく。

2 PGU — パナソニック本社 No.4交渉 3月 11日(水) 9時～**■回答にあたっての労使見解****会社**

今次交渉は、米中貿易摩擦など保護主義的な動きが広がり、世界経済が減速傾向になる中、Society5.0時代に向けて企業の生産性をいかに高めていくのか、さらには経済の好循環をいかに実現していくのかという社会的な要請や期待を認識したうえでスタートした。また、交渉期間中には新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大し、日本国内でも市民生活や経済活動にさまざまな支障が生じるなど、企業経営の先行き不透明感が一気に高まる中で労使ともに非常に難しい交渉となった。

そのような中、事業を変革し成長させていくための原動力として「人への投資」はどうあるべきなのか、労使が真摯に論議する交渉であったと認識している。これまでの深い信頼関係をベースに過去の慣例やしがらみを断ち切って論議を尽くすことができた。長い春季交渉の歴史の中で、今回の労使論議は大きな足跡を残すものであり、今後の「人への投資」のあり方に確かな方向性を指し示すものになった。変化を恐れず、大きな一歩を踏み出した労働組合に対し、改めて敬意を表したい。労働組合の真摯な姿勢を会社としてもしっかりと受け止め、要求内容に対して最大限の回答を決断した。

賃金については、「人への投資」として月例賃金の引き上げと退職金・年金制度の拡充に合計で1,000円の配分を行う。これまで当社では、「人への投資」として月例賃金の引き上げだけを行ってきたが、「人への投資」によって3つの不安払拭につなげていくためには、より積極的で柔軟な施策も必要であると考えてきた。今回、「人への投資」として月例賃金の引き上げのみならず、退職金・年金制度の拡充を行うが、これは当社で働く一人ひとりの従業員が将来に対する不安を軽減し、日々の仕事に邁進するための「安心感」につなげられるものだと考える。また同時に、社会的課題に対して企業労使として持ちうる解の1つにもなると考えている。

初任給については、産業や業種の垣根を超えて激しい人材獲得競争が予想されることも踏まえ、従来よりも重点的に配分を行うこととする。とりわけ、大学院（修士）卒・大卒・高専卒初任給の引き上げについては労働組合の要求に対して満額回答を決断した。しかしながら、働きがいを感じながら成長し続けられる職場環境をつくるのが人材確保の面においても重要であるということを、傘下のグループ関係会社の労働組合も含め、改めて正しく理解いただきたい。

賞与については、減収減益の経営見通しの中、非常に厳しい交渉となった。世界経済が停滞する中、当社は「事業競争力の強化」と「経営体質の徹底強化」をしっかり仕上げていく必要がある。再び事業を成長軌道に戻せるかどうかの正念場である。このような中、固定費削減に向けたさまざまな努力や厳しい経営改革にも真摯に向き合い、全力で対応いただいている従業員一人ひとりの思いに応えるべく、一人平均4.85カ月相当を決断した。この水準は、世界経済の先行き不透明感が増している中、現在の当社にとって非常に大きな経営負担であることは事実である。ぜひ会社の意を十分に理解し、全員のなご一層の頑張りによって大きな経営成果につなげていただくことを期待する。

労働協約については、これまでもA Better Workstyleの実現をめざして労使で価値観を共有し、さまざまな環境整備を進めてきたが、この取り組みにゴールはないと考えている。引き続きこの価値観をベースに今後も真摯な論議を重ねていきたい。

賃金、初任給、賞与などいずれも、当社の経営状況を踏まえば大変重たい決断になった。中期戦略の確実な実行

に向け、組合員のさらなる奮起と意思結集を期待し、会社として最大限の決断をしたものである。労働組合においては、本回答の重みを改めて十分に認識いただくとともに、組合員への徹底をお願いしたい。

最後に、労働組合には、会社経営に対する深い理解のもと、本交渉に誠意をもって臨んでいただいたことに改めて御礼申し上げる。

組合

今次闘争は、「生活不安」「雇用不安」「将来不安」という3つの不安の払拭に向け、「人への投資」が必要であるという労使共通の認識のもと論議を始めた。

交渉においては、とりわけ、これまで数次の闘争で意見を交わしてきた「人への投資」の柔軟性が論点になった。

組合としては、社会の成熟や少子高齢化の進展、加えて組合員それぞれの価値観が多様化していることなどもあり、「3つの不安払拭に向けた取り組みもまた多様である」ことを背景として、賃金水準改善を基本としつつも、柔軟性についての交渉に臨んだ。

その結果、パナソニック労使として、賃金水準改善に加え、「将来不安」を起点に3つの不安の払拭につながる「退職金・年金制度の拡充」を行うという合意点を見いだした。

今次闘争は「人への投資」の柔軟性に取り組んだ初年度となる。この結果を従業員の不安払拭に真につなげるため、想いや意図の発信、サポートを十分に行うとともに、次年度に向け課題の整理を行う必要があると考える。労使でしっかりと取り組んでいきたい。

また、賃金、一時金をはじめとした今回の会社回答は、日々変化する現下の厳しい経営環境においても、パナソニック労使の果たすべき社会的責任や、職場組合員の頑張りとさらなる活躍への期待を踏まえた最大限の対応であり、極めて重い判断をいただいたものと受けとめている。とりわけ一時金については、闘争期間中に激変した経営環境を考えれば、相当に異例の判断であったと考える。事業の転換期にあるパナソニックとして、変化に挑む従業員に対する会社からの期待の発信だと受けとめる。必要なのは、自ら変化を起こす気概、そして一歩踏み出す勇気である。社会から必要とされる、「新しいパナソニック」を作り上げていかなければならない。

また、グループ関係会社全体としての成長につなげることが、パナソニック労使として真に社会的責任を果たすことになると考える。

今後、パナソニックグループ各社と関係会社の労使においては交渉が本格化する。PGU全体としては格差改善、とりわけ賃金水準の格差改善に向けて取り組んでいる。会社としてもパナソニックグループ各社と関係会社への最大限の働きかけをお願いする。

最後に、どんなに素晴らしい制度や仕組みも、その意図するところが理解されなければ、運用も滞り、効果も上がらない。組合は今回の論議を通じて、回答に込めた想いをしっかりと職場の組合員に伝えていきたいと考える。会社も社内外への丁寧な発信をお願いする。

以上、見解を申し上げ、本日提起された会社回答をもって、関連する標準労働協約適用8組合とパナソニック・パナソニックビジネスサービス株式会社への出向者に関わる1組合に闘争の集約方向を提案していくこととする。

なお、集約確認については、各組合にて4月中旬に機関決定を行い、パナソニックグループ労連としては4月24日開催予定の機関会議にて確認を行う予定であることを申し添える。